青森市埋蔵文化財調査報告書 第82集

三内沢部（3）遺跡

発掘調査報告書

平成17年度

青 森 市 教 育 委 員 会

序

昨年４月１日に旧青森市と旧浪岡町との合併により、「新青森市」が誕生し、新たな歴史を歩むことになりました。

また、このたびの合併により特別史跡三内丸山遺跡をはじめ、小牧野遺跡、高屋敷館遺跡、浪岡城跡の史跡を含む周知の埋蔵文化財包蔵地が約380ヶ所となりました。

三内沢部（３）遺跡が所在する三内地区は、古くから多くの遺跡の存在が知られており、三内丸山遺跡や三内丸山（６）遺跡、三内遺跡、三内沢部（１）遺跡、三内霊園遺跡などの遺跡が分布しております。

このたびの当委員会による本遺跡の発掘調査および平成15年度より実施されております青森県埋蔵文化財調査センターの調査成果等により、縄文・古代・中近世・近代の各時代にわたり、本遺跡の集落が断続的に営まれていたことが明らかになりました。

最後に本調査を実施するにあたりご協力下さいました調査委託者をはじめ、関係諸機関および関係各位の皆様のご理解・ご協力に厚くお礼申し上げます。

平成18年３月

青森市教育委員会
教　育　長　角　田　詮二郎

例　　言

1．本書は、青森県青森市大字三内字沢部315-１ほかに所在する三内沢部（３）遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、アパート建築工事に伴い事業者の負担を受け、青森市教育委員会が平成17年７月４日～29日の期間で実施した。調査面積は933㎡である。

3．本報告書の執筆は、第Ⅰ章第１・２節を文化財主事　児玉大成が担当し、そのほかの執筆および編集を青森市埋蔵文化財調査員　嶋影壮憲が担当した。

4．本報告書の土層の注記については、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄1997）に準拠した。

5．挿図・図版の縮尺は、遺構配置図１：200、基本層序・土坑・溝跡断面図・小ピット１：40、遺物実測図・拓影図１：３、土器写真１：３、鉄製品写真１：２である。

6．本書の方位については真北を示した。ただし「真北」は、日本測地系に基づく平面直角座標系第Ｘ系に準ずる。

7．遺構平面図・断面図等の標高値は海抜高度によるものである。

8．土器の縄文施文原体に関する用語については、『日本先史土器の縄紋』（山内清男1979）に準拠した。

9．出土遺物および記録図面・写真関係資料は、現在、青森市教育委員会が保管している。

10．図中、表中で使用した遺構・遺物の略称は以下のとおりである。
　　土坑→ＳＫ、溝跡→ＳＤ、小ピット→ＳＰ、土器→Ｐ

11．発掘調査から報告書の作成に至るまで、調査委託者である渡邊　正氏をはじめ、下記の方々からご教示・ご協力を得た。（敬省略、五十音順）

青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、小笠原　雅行、能代谷　征則

目　　次

序
例言
目次

第Ⅰ章　調査の概要…… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査要項…… 2
　第３節　調査経過…… 3
　第４節　遺跡の環境…… 3
　第５節　調査方法…… 6

第Ⅱ章　検出遺構と出土遺物…… 8
　第１節　土坑…… 8
　第２節　溝跡…… 8
　第３節　小ピット……16
　第４節　遺構外出土遺物……16

第Ⅲ章　まとめ……18
引用・参考文献……19

図版目次

第１図　造成予定地および調査トレンチ位置図…… 1
第２図　三内沢部（３）遺跡の位置と周辺の遺跡…… 4
第３図　調査区と周辺の地形…… 5
第４図　基本層序…… 6
第５図　遺構配置図…… 7
第６図　土坑１・２…… 9
第７図　土坑出土遺物……10
第８図　溝跡１～８・10……14
第９図　溝跡６～10……15
第10図　溝跡・遺構外出土遺物……15
第11図　小ピット１～８……16
第12図　小ピット９～18……17

表目次

第１表　三内沢部（３）遺跡と周辺の遺跡一覧…… 4
第２表　土坑一覧……20
第３表　溝跡一覧……20
第４表　小ピット一覧……20
第５表　出土土器観察表……21

第Ⅰ章　調査の概要

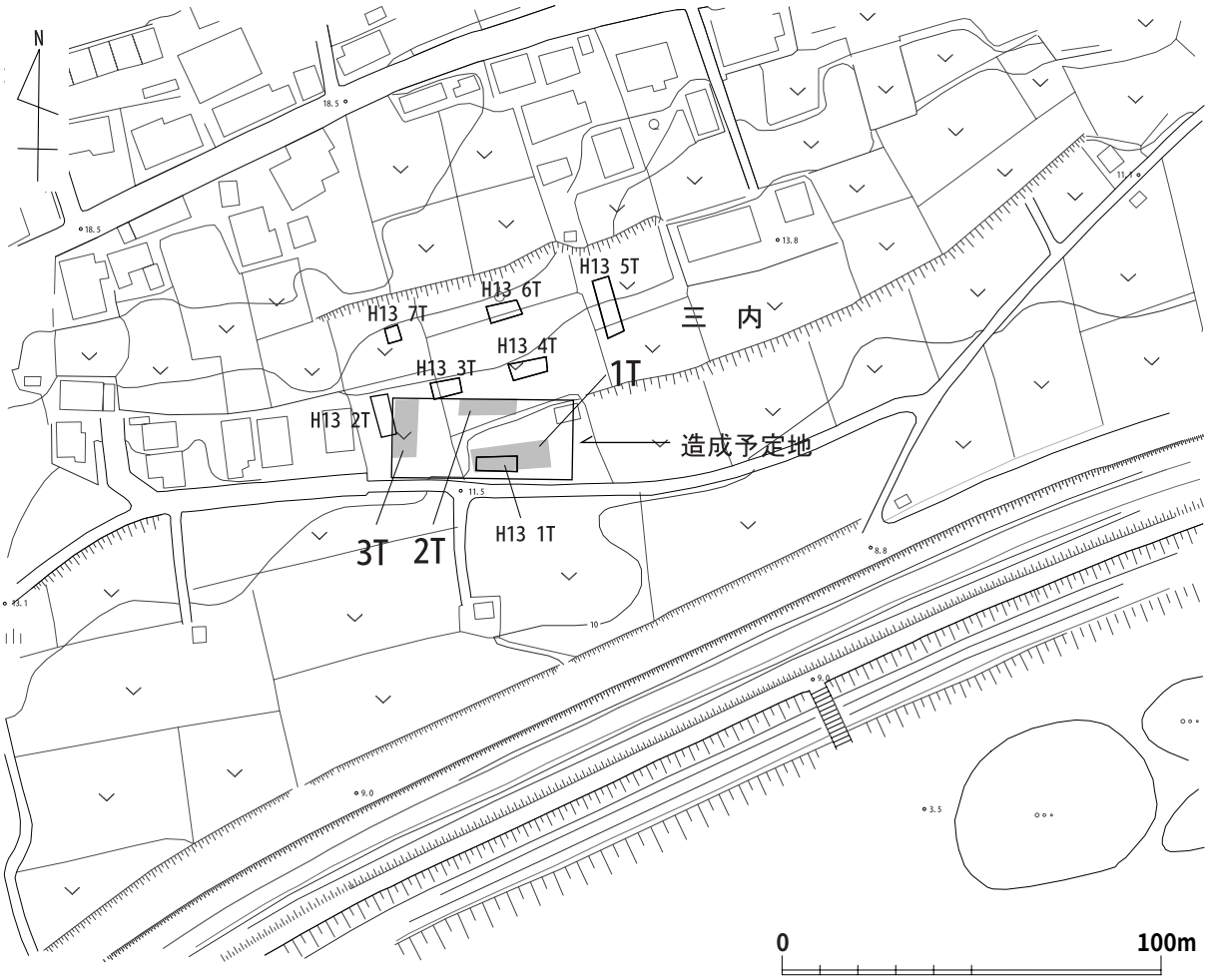
第１節　調査に至る経緯

平成16年 7 月22日、青森市教育委員会文化財課（以下、当委員会）に、青森市大字三内字沢部のアパート建築に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が建築業者より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、開発予定地が三内沢部（ 3 ）遺跡（青森県遺跡台帳番号01239）に該当していることが明らかとなった。

本予定地は、当委員会で平成13年度に4,000㎡を対象とした確認調査を実施（青森市教育委員会2002）しており、その後1,000㎡に計画変更されて今日に至っている。

建築主である渡邊正氏は、平成17年 3 月29日付けで当委員会を経由して県教育委員会教育長宛に土木工事等のための発掘に関する届出書を提出し、平成17年 3 月31日付け青教文第1316号にて同県教育長から事前の発掘調査が必要である旨の回答がなされた。

このため、当委員会では遺跡の内容を把握することを目的に平成17年 4 月22日に確認調査を実施した。調査では、開発予定地（1,000㎡）に任意のトレンチを３地点設定し、重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った。調査面積は283㎡である。結果、土坑２基と溝跡 6 条、縄文土器片などを確認したため、平成17年７月４日～７月29日の期間で発掘調査を実施することとなった。



第１図　造成予定地および調査トレンチ位置図（1：2,000）

第２節　調査要項

１．調査目的

アパート建築に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

２．遺跡名および所在地

三内沢部（３）遺跡　　（青森県遺跡番号　０１２３９）
青森市大字三内字沢部315－１外

３．発掘調査期間　　平成17年７月４日～平成17年７月29日

４．調 査 面 積　　933㎡

５．調査委託者　　渡邊　正

６．調査受託者　　青森市

７．調査担当機関　　青森市教育委員会事務局文化財課

８．調査指導機関　　青森県教育庁文化財保護課

10．予 算 措 置　　調査委託者側で措置

11．調 査 体 制　　調査事務局　青森市教育委員会

教　育　長	角田詮二郎
教育部長	古山　善猛
理　事	月永　良彦
参事・文化財課長事務取扱	遠藤　正夫
主　幹	多田　弘仁
主　査	佐々木競子
文化財主事	小野　貴之
〃	木村　淳一
〃	児玉　大成（調整担当）
〃	設楽　政健
主　事	當麻　良人（庶務担当）
〃	越谷美由紀（　〃　）
埋蔵文化財調査員	嶋影　壮憲（調査担当）

埋蔵文化財調査補助員　　沼畑　伸一
〃　　安田　武美

第３節　調査経過

平成17年７月４日～６日に、重機による表土除去を行った。表土除去は安全を考慮し、道路から約１mの控えを確保した。試掘調査では、遺物包含層がないことを確認したため、表土除去は遺構確認面まで行った。遺構が確認された部分は検出面で止め、ほかの部分についてはⅣ層上面まで重機で除去した。表土除去の結果、土坑２基、溝跡10条、小ピット18基が確認された。本調査は７月11日に着手し、測量原点およびグリッド杭の打設と遺構確認精査を行った。遺構確認および精査は、調査終了日の７月29日まで行い、同日中にすべての作業を終了した。

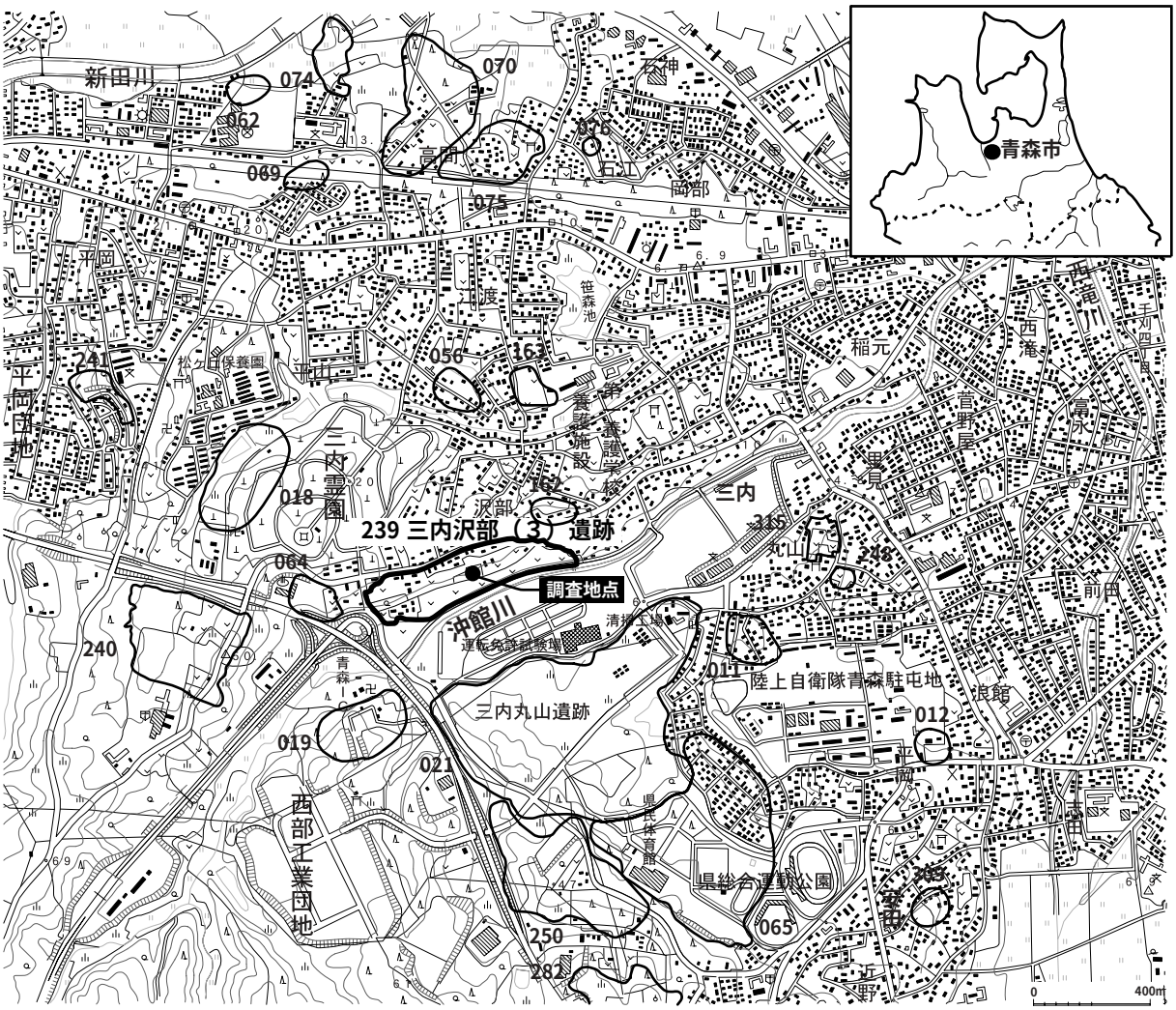
第４節　遺跡の環境

三内沢部（３）遺跡は青森市の西部に所在する。遺跡の北西には三内霊園があり、遺跡の南東を流れる沖館川の対岸には運転免許試験場を挟んで特別史跡 三内丸山遺跡が所在している。

本遺跡は、丘陵地を北流し、青森湾へ注ぐ沖館川の左岸、浪館台地の東縁部の下位段丘面上に立地する。標高は10～20mである。浪館台地の南西側には海成起源の岡町層および八甲田火砕流堆積物で構成される丘陵地が迫り、北東側には青森平野が広がる。

本遺跡は平成６年度の分布調査（青森市教育委員会1995）で発見された遺跡で、縄文・平安時代の散布地として登録されている。前節で記述したように、平成13年度にはアパート建設に伴い、青森市教育委員会が確認調査を実施しており、縄文時代の土坑、平安時代の竪穴住居跡、それ以降に構築された溝跡などが検出された（青森市教育委員会2002）。平成15年度からは東北新幹線建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターにより発掘調査が実施されている。調査では、縄文時代中期と平安時代の竪穴住居跡や中世以降の掘立柱建物跡、溝跡、土坑などが検出されている（青森県教育委員会2005）。平成16・17年度は、本遺跡の北西部を調査し、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑が検出されている（青森県埋蔵文化財調査センター2005）。なお、平成18年度以降も発掘調査は継続予定である。本発掘調査は、平成15年度に青森県埋蔵文化財調査センターが発掘した調査区北側の東側、標高10～12m付近の緩斜面を調査対象として実施した。今回の調査では、青森県埋蔵文化財調査センターの調査区北側において確認されたのと同様に、調査区全体にわたり既に削平されていた状況がみられた。調査区周辺は北側と西側が宅地、南側と東側が畑地となっている。調査区南側の東西に延びる農道に平行して緩斜面が削平され平坦面が形成されている。

なお、遺跡周辺の環境については、『三内沢部（３）遺跡・柴山（１）遺跡・洗平（２）遺跡』（青森県教育委員会2005）に詳述されており、そちらを参照されたい。

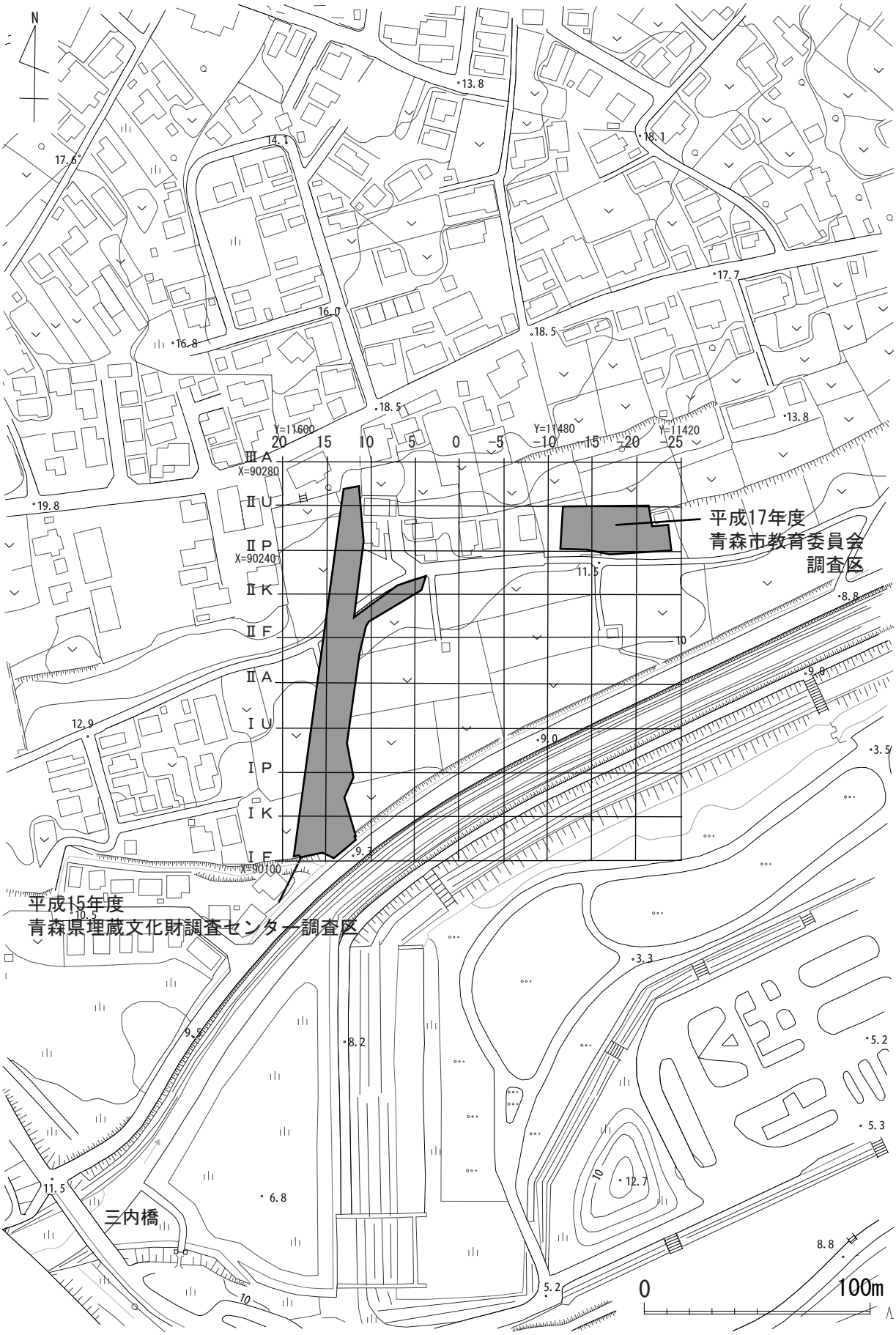


第２図　三内沢部（３）遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25,000）

第１表　三内沢部（３）遺跡と周辺の遺跡一覧

台帳番号	遺　跡　名	種別	時期											文　献
			縄文						弥生	古代	中世	近世	近代	
			早期	前期	中期	後期	晩期	不明						
011	浪館（1）	散布地		■										
012	浪館（2）	散布地					■							
018	三内霊園	集落跡		■	■									青森市教育委員会1962
019	三内	集落跡			■	■				■				青森県教育委員会1978a
021	三内丸山	集落跡		■	■	■	■			■	■	■		青森県教育委員会1994ほか
056	石江	散布地		■						■				
062	西高校	散布地							■	■				
064	三内沢部（1）	集落跡	■	■	■	■								青森県教育委員会1978b
065	近野	集落跡		■	■	■	■			■		■		青森県教育委員会1975aほか
069	新城平岡（2）	集落跡				■				■				
070	高間（1）	集落跡		■	■	■				■		■	■	青森市教育委員会2005
074	新城平岡（4）	集落跡		■	■	■				■		■		
075	高間（6）	集落跡			■	■				■		■		
076	岡部	散布地						■						
162	三内沢部（2）	散布地			■									
163	江渡	集落跡		■	■	■			■	■		■		青森市教育委員会2004
239	三内沢部（3）	集落跡		■	■	■	■			■	■	■	■	青森県教育委員会2005
240	三内沢部（4）	散布地								■				
241	新城平岡（3）	散布地								■				
248	三内丸山（3）	散布地								■				
250	三内丸山（5）	集落跡			■	■	■							青森県教育委員会2004
282	三内丸山（6）	集落跡			■	■	■							青森県教育委員会1999・2000ほか
309	安田近野（2）	散布地		■										
315	三内丸山（8）	集落跡			■	■	■		■	■				青森市教育委員会2005a

（青森県教育委員会2005を一部改変）



第３図　調査区と周辺の地形（1：2,500）

第５節　調査方法

１．発掘区の設定

グリッドの設定は、平成15年度に青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査で使用していたものを拡張し、調査区内に４ｍ×４ｍのメッシュを組んだ（第５図）。グリッド杭の表示は、青森県埋蔵文化財調査センターが使用していたものを起点とし、南から北へⅡＰ、ⅡＱ、ⅡＲ…の順にアルファベットを付し、西から東へ－11、－12、－13…の順に算用数字を付した。各グリッドの呼称は、アルファベットと算用数字を組み合わせて示し、南東角のグリッド杭の名称によるものとした。なお、調査の際にはローマ数字のⅡを省略した。

２．調査方法

各遺構は、種類別、確認順に遺構番号を付した。遺構精査にあたっては、その規模・形状に合わせて、４分法、２分法を用いることとし、その他必要に応じて土層観察用のベルトを設定した。

遺構の実測図作成は基本的に簡易遣り方測量で行ったが、溝跡の平面図については光波測距機を用いて測量を行い、現場で作図した。縮尺は20分の１とした。

写真撮影は、35㎜一眼レフカメラと補助的にデジタルカメラを使用した。フィルムはモノクロームとカラーリバーサルを使用した。

出土遺物の取り上げに関して遺構内出土遺物は、基本的に出土位置を記録し、堆積土の層位ごとに取り上げた。遺構内の微小な遺物ならびに遺構外出土遺物は、原則的にグリッド２ｍごとに４分割し、南東角から反時計回りに１～４の小グリッドを設定し、層位ごとに一括して取り上げた。

３．層序

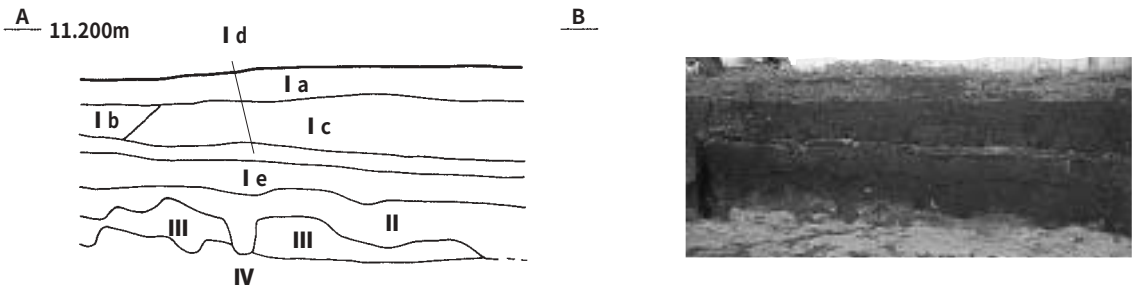
遺跡内の土層（第４図）は、青森県埋蔵文化財調査センターにより行われた調査と概ね同様の層序となっている。したがって、本調査では次のように区分した。

Ⅰ層　畑地として利用された際の耕作土および耕作地造成に伴った可能性がある盛土である。平均層厚約70㎝。土質や色調などから５層に細分できるが、詳細は省略する。

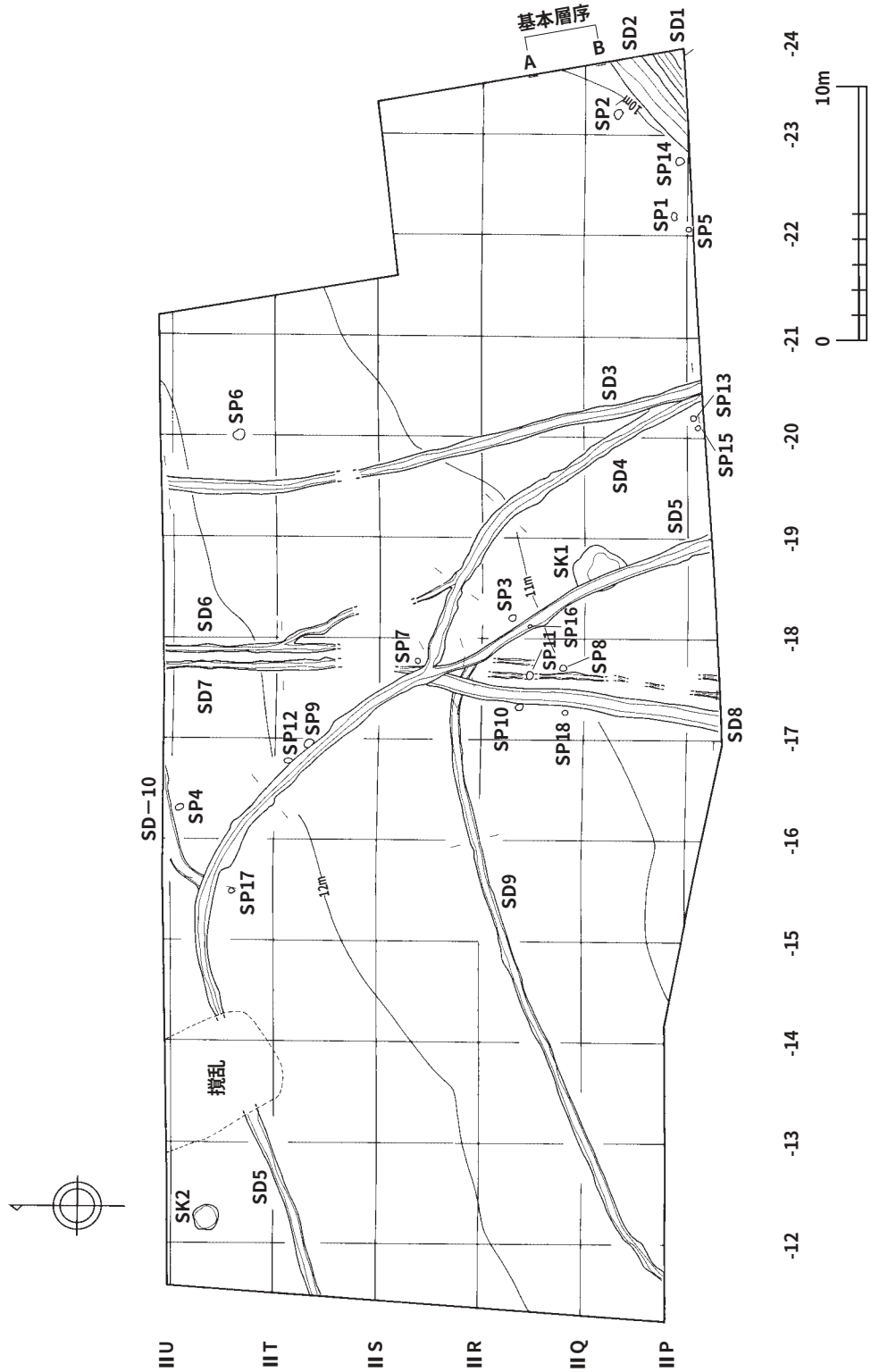
Ⅱ層　黒色（10YR1.7/1）腐植質の土層である。平均層厚15㎝。調査区南側の一部にみられる。遺物はほとんど含まれていない。

Ⅲ層　暗褐色（10YR3/4）の漸移層である。平均層厚10㎝。（青森県埋蔵文化財調査センター2005）のⅣ層に対応する。

Ⅳ層　明黄褐色（10YR6/8）軽石質火山灰層である。十和田－八戸テフラに対比される。



第４図　基本層序


基本層序
A
B
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD−10
SP1
SP2
SP3
SP4
SP5
SP6
SP7
SP8
SP9
SP10
SP11
SP12
SP13
SP14
SP15
SP16
SP17
SP18
SK1
SK2
撹乱
10m
11m
12m
0
10m
-12
-13
-14
-15
-16
-17
-18
-19
-20
-21
-22
-23
-24
IIU
IIT
IIS
IIR
IIQ
IIP

第５図　遺構配置図

第Ⅱ章　検出遺構と出土遺物

本調査では、縄文時代の土坑２基、平安時代以降と考えられる溝跡10条、小ピット18基を検出した。調査区全体にわたってⅡ・Ⅲ層が削平されており（南側の一部は残存）、遺構確認面はⅢ層またはⅣ層である。遺物は段ボール１箱分で、そのほとんどが遺構内から出土した。なお、遺構の一覧と遺物の詳細は、表として20・21頁に収めた。

第１節　土坑（ＳＫ）

土坑１（第６図）

［位　　置］　Ｐ‐－19・Ｑ‐－19グリッドに位置する。

［重　　複］　溝跡５と重複する。新旧関係は本土坑の方が古い。

［平面形・規模］　平面形は南北方向を長軸とするやや歪んだ楕円形である。規模は長径175㎝、短径110㎝、深さ42㎝である。

［堆　積　土］　黒褐色土・黒色土を主体として11層に分層した。このうち、第２層には焼土がレンズ状に堆積している。

［出 土 遺 物］　縄文土器片51点が出土した。これらのほとんどは第１層からやや集中した状態で出土したが、接合したものは少ない。第７図１～23は出土状況やその特徴から同一個体と思われる。底部が若干張り出し、胎土に繊維は含まれていない。口縁部を欠くため土器型式の比定は困難であるが、縄文中期中葉～末葉に相当する土器と思われる。

［時　　期］　出土遺物から、縄文中期に属する遺構と思われる。

土坑２（第６図）

［位　　置］　Ｔ‐－13グリッドに位置する。

［重　　複］　なし。

［平面形・規模］　平面形は円形で、規模は長径110㎝、短径98㎝、深さ20㎝である。

［堆　積　土］　黒色土と黒褐色土が堆積している。

［出 土 遺 物］　縄文土器片15点が出土した。第７図25～32は縄文前期円筒下層式土器である。第７図33は無文で詳細な時期は不明である。

［時　　期］　出土遺物から、縄文時代前期以降の遺構と思われる。

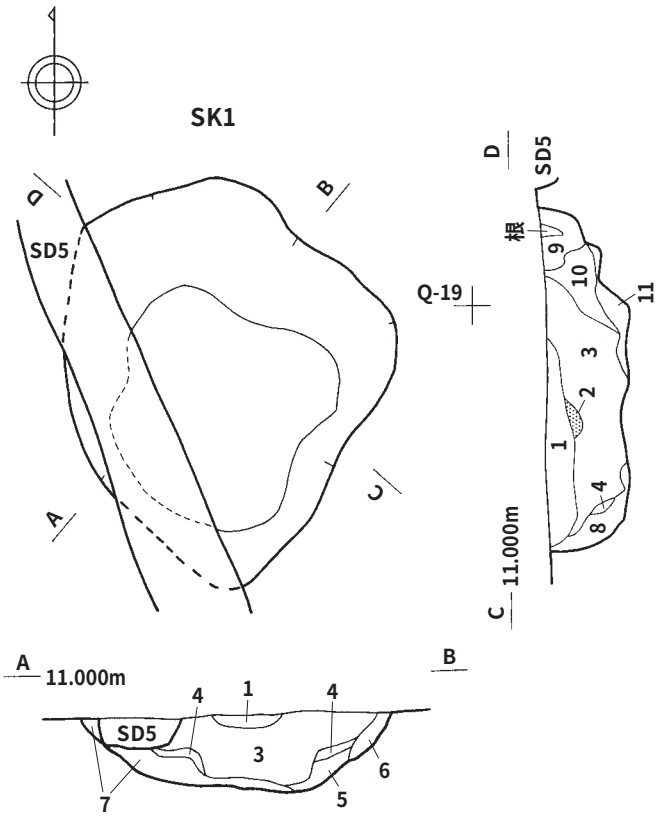
第２節　溝跡（ＳＤ）

溝跡１（第５・８図）

［位　　置］　Ｐ‐－24グリッドに位置する。

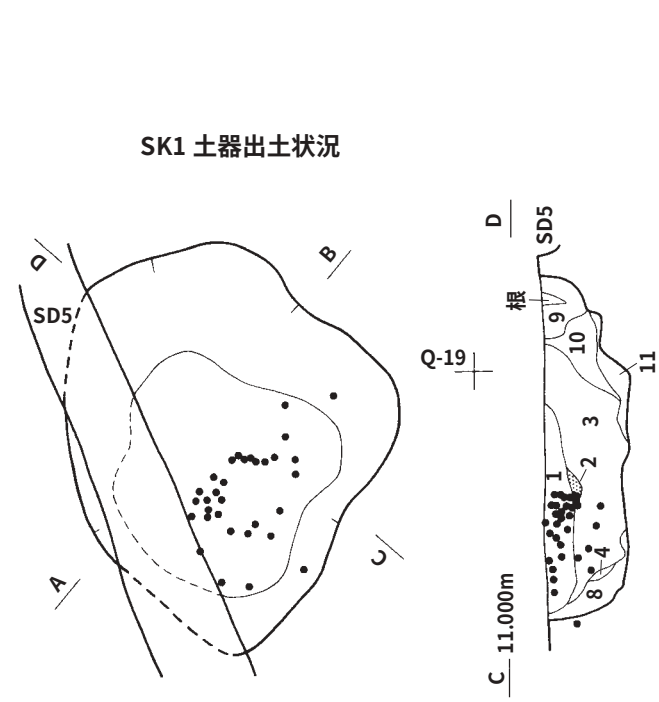
［重　　複］　なし。

［平面形・規模］　平面形は直線的形態をなし、北東～南西の方向に延びる。規模は幅64㎝、深さは

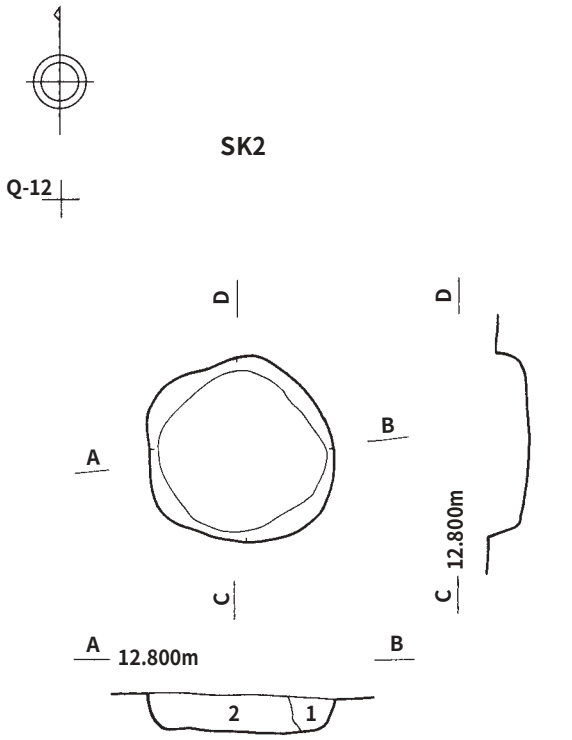


SK1
1　10YR2/2　黒褐色
2　10YR2/1　黒色＋7.5YR5/6　焼土
3　10YR2/1　黒色
4　10YR2/3　黒褐色　固く締まる
5　10YR5/6　黄褐色　４層がブロック状に混入、締まり有り
6　10YR5/6　黄褐色　ロームブロック多量混入、やや締まる
7　10YR5/6　黄褐色　湿性有り
8　10YR2/2　黒褐色　ロームブロック少量混入
9　10YR3/2　黒褐色　ローム粒少量混入
10　10YR2/2　黒褐色　ローム粒少量混入
11　10YR2/1　黒色＋10YR4/2　灰黄褐色　ロームブロック多量混入

SK1 土器出土状況



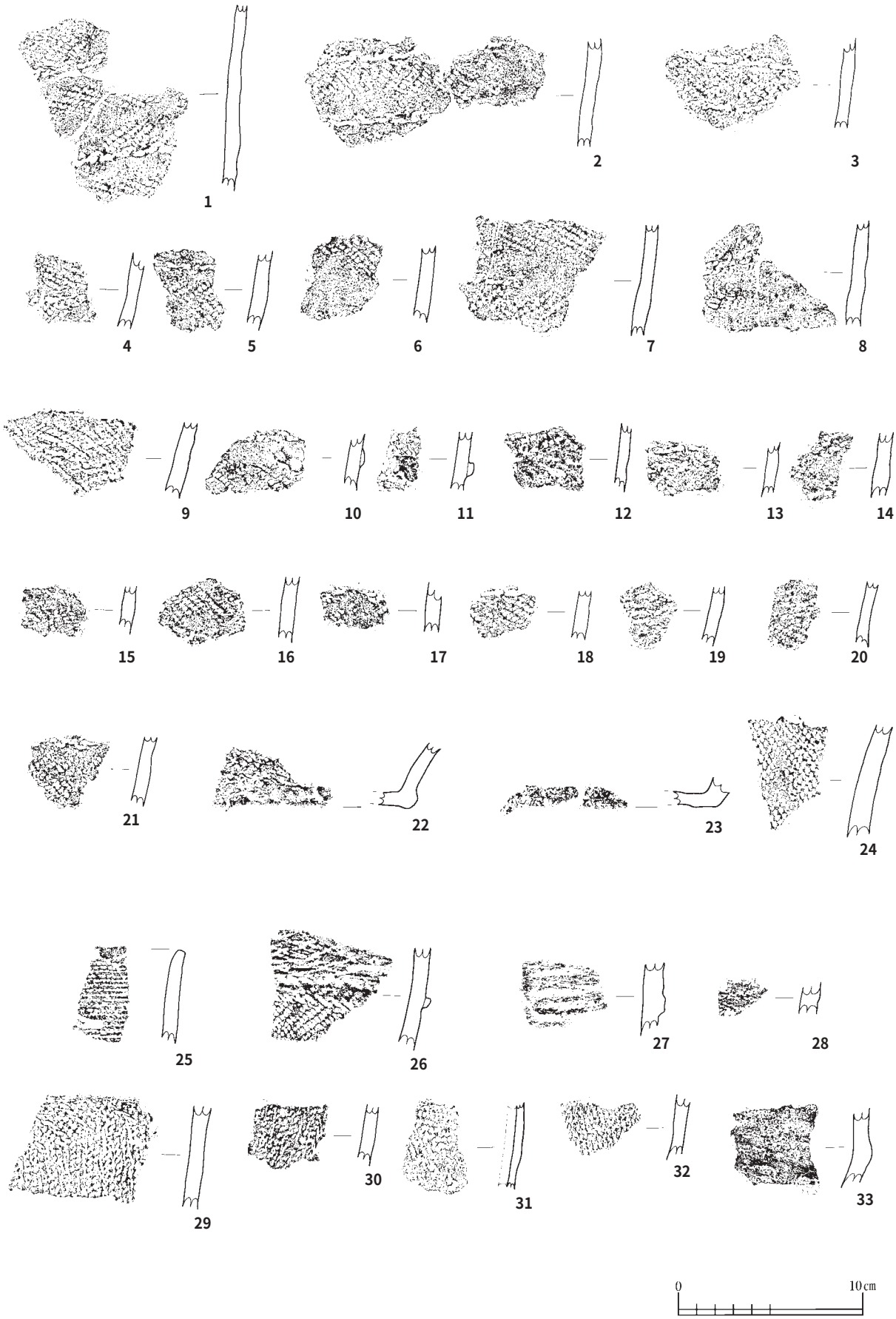
SK2



SK2
1　10YR1.7/1　黒色　ロームブロック少量混入、締まり、粘性有り
2　10YR2/2　黒褐色　パミス粒少量混入、締まり、粘性有り

0　2m

第６図　土坑１・２



第７図　土坑出土遺物（１～24：土坑１、25～33：土坑２）

最深部が47㎝である。

［堆　積　土］　黒色土が堆積している。自然堆積と思われる。

［出 土 遺 物］　なし。

［時　　期］　不明。

溝跡２（第５・８図）

［位　　置］　Ｐ‐－24グリッドに位置する。

［重　　複］　なし。

［平面形・規模］　平面形は直線的形態をなし、北東～南西の方向に延びる。規模は幅120㎝、深さは最深部が60㎝である。

［堆　積　土］　黒褐色土・黒色土が互層をなして堆積している。部分的に地山ロームブロックが多量に混じる。覆土下位は堆積状況から人為的に埋め戻された可能性もあるが、覆土上位は自然堆積と思われる。

［出 土 遺 物］　縄文土器片が１点出土した。

［時　　期］　不明。

溝跡３（第５・８図）

［位　　置］　Ｐ‐－21～Ｔ‐－20グリッドに位置する。

［重　　複］　溝跡４と重複する。新旧関係は本溝跡の方が新しい。

［平面形・規模］　平面形はほぼ直線的な形態をなし、南北方向に延びる。規模は幅50㎝、深さは最深部が22㎝である。

［堆　積　土］　黒色土・黒褐色土が堆積している。自然堆積と思われる。

［出 土 遺 物］　縄文土器片が９点出土した。第10図１は胴部、２は底部片である。いずれも厚手で円筒土器と思われるが、詳細な時期は不明である。２は底に網代痕がみられる。

［時　　期］　不明。

溝跡４（第５・８図）

［位　　置］　Ｏ‐－19～Ｒ‐－18グリッドに位置する。

［重　　複］　Ｒ‐－18グリッドで溝跡５から分岐する。溝跡３と重複し、新旧関係は本溝跡の方が古い。溝跡６に合流する。

［平面形・規模］　平面形は緩い弧状をなし、北西～南東の方向に延びる。規模は幅48㎝、深さは最深部が26㎝である。

［堆　積　土］　黒褐色土・黒色土が堆積している。自然堆積と思われる。

［出 土 遺 物］　縄文土器片３点、礫が１出土した。第10図４は底部に近い部分である。

［時　　期］　不明。

溝跡５（第５・８図）

［位　　置］　Ｏ‐－20～Ｓ‐－12グリッドに位置する。

［重　　複］　土坑１、溝跡７・８・10と重複する。新旧関係はすべて本溝跡の方が新しい。
［平面形・規模］　平面形は緩い弧状をなす。規模は幅51㎝、深さは最深部が36㎝である。
［堆　積　土］　黒色・黒褐色土が堆積している。自然堆積と思われる。
［出 土 遺 物］　縄文土器片15点、焼礫６点が出土した。第10図６は結節ＬＲ縄文が施されており、土坑１出土遺物と同一個体の可能性も考えられる。７・８は同一個体と思われる。縦位に３本組の沈線が施されており、最花・中の平３式土器に比定される。10は土師器の胴部片である。
［時　　期］　不明。

溝跡６（第５・８図）
［位　　置］　Ｏ‐－18～Ｔ‐－18グリッドに位置する。
［重　　複］　溝跡４に合流する。
［平面形・規模］　平面形はほぼ直線的な形態をなし、南北方向に延びる。Ｓ‐－18グリッドで二叉に分かれる。規模は幅30㎝、深さは最深部が18㎝である。
［堆　積　土］　黒色・黒褐色土が堆積している。自然堆積と思われる。
［出 土 遺 物］　焼礫１点が出土した。
［時　　期］　不明。

溝跡７（第５・８・９図）
［位　　置］　Ｏ‐－18～Ｔ‐－18グリッドに位置する。
［重　　複］　溝跡５と重複する。新旧関係は本溝跡の方が古い。
［平面形・規模］　平面形はほぼ直線的な形態をなし、南北方向に延びる。規模は幅33㎝、深さは最深部が20㎝である。
［堆　積　土］　黒褐色土が堆積している。自然堆積と思われる。
［出 土 遺 物］　縄文土器片１点が出土した。第10図11は口縁部片で、波状口縁の波頂部と思われる。細めの粘土紐が貼り付けられ、円筒上層ｄ式土器に属すると思われる。
［時　　期］　不明。

溝跡８（第５・８・９図）
［位　　置］　Ｏ‐－18～Ｒ‐－18グリッドに位置する。
［重　　複］　溝跡５・９と重複する。新旧関係は、本溝跡が溝跡９より新しく、溝跡５より古い。
［平面形・規模］　平面形はほぼ直線的な形態をなし、南北方向に延びる。規模は幅80㎝、深さは最深部が50ｃ㎝である。
［堆　積　土］　黒褐色・暗褐色・黒色土を主体に11層に分層した。
［出 土 遺 物］　縄文土器片１点、礫１点が出土した。
［時　　期］　不明。

溝跡９（第５・９図）

［位　　置］　Ｐ‐－12～Ｒ‐－18グリッドに位置する。

［重　　複］　溝跡８と重複する。新旧関係は本溝跡の方が古い。

［平面形・規模］　平面形はほぼ直線的な形態をなし、斜面に沿って概ね東西方向に延びる。規模は幅29㎝、深さは最深部が18㎝である。

［堆　積　土］　黒色土が堆積している。自然堆積と思われる。

［出 土 遺 物］　土師器片１点、焼礫１点。第10図12は土師器の坏の口縁部片である。ロクロ調整である。色調は赤褐色である。

［時　　期］　不明。

溝跡10（第５・８・９図）

［位　　置］　Ｔ‐－16～‐－17グリッドに位置する。

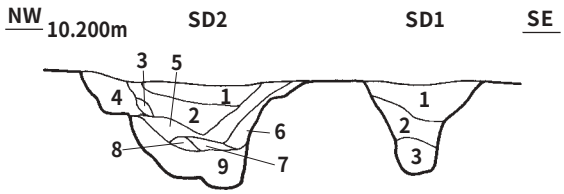
［重　　複］　溝跡５と重複する。新旧関係は本溝跡の方が古い。

［平面形・規模］　平面形はほぼ直線的な形態をなし、南西～北東方向に延びる。規模は確認面で幅44㎝、深さは最深部が10㎝である。

［堆　積　土］　黒褐色土・暗褐色土が堆積している。自然堆積と思われる。

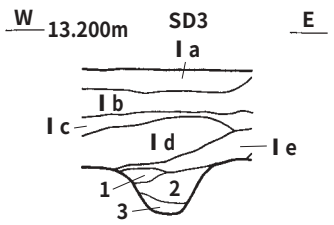
［出 土 遺 物］　なし。

［時　　期］　不明。

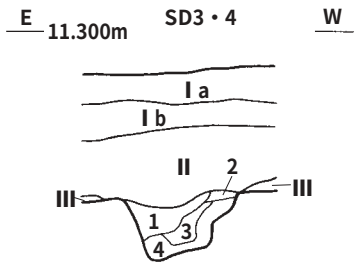


SD1
1　10YR2/1　黒色　　パミス粒少量混入
2　10YR1.7/1　黒色　　パミス粒微量、Ⅲ層ブロック下部に少量混入
3　10YR1.7/1　黒色　　ロームブロック少量混入

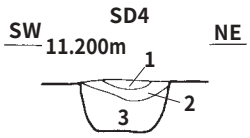
SD2
1　10YR2/1　黒色　　パミス粒少量混入
2　10YR2/1　黒色　　パミス粒微量混入
3　10YR2/1　黒色　　パミス粒多量混入
4　10YR2/1　黒色　　パミス大粒少量混入
5　2.5Y3/2　黒褐色　パミス粒多量混入
6　10YR2/1　黒色　　パミス大粒少量混入
7　10YR2/1　黒色　　パミス粒少量混入
8　10YR2/1　黒色　　パミス大粒多量混入
9　10YR2/1　黒色　　パミス大粒少量、ロームブロック少量混入



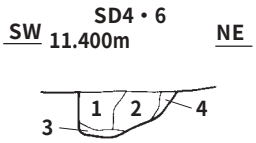
SD3
1　10YR2/1　黒色　　ローム粒少量、炭化粒少量混入
2　10YR2/1　黒色　　ローム粒少量混入、締り弱い、１より明るい
3　10YR2/2　黒褐色　ローム粒少量混入



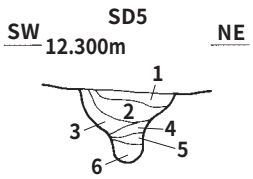
SD3・4
1　(SD3-2)　10YR2/1　黒色　　ローム粒少量混入
2　(SD4-1)　10YR1.7/1　黒色　　ローム粒少量混入
3　(SD4-2)　10YR2/2　黒褐色　ロームブロック多量混入
4　(SD4-3)　10YR2/1　黒色　　ロームブロック少量混入



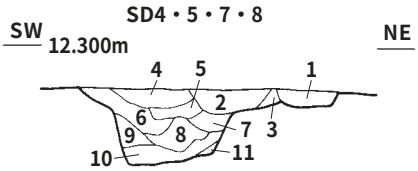
SD4
1　10YR2/2　黒褐色　パミス細粒少量、ロームブロック少量混入
2　10YR1.7/1　黒色　　パミス細粒少量、ローム粒微量混入
3　10YR2/3　黒褐色　パミス粒微量、ロームブロック少量混入



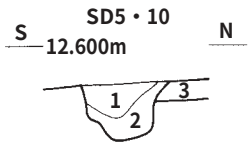
SD4・6
1　(SD4-1)　10YR1.7/1　黒色　　パミス細粒微量、ローム粒少量混入
2　(SD4-2)　10YR2/2　黒褐色　パミス細粒微量、ロームブロック多量混入
3　(SD4-3)　10YR2/2　黒褐色　パミス細粒微量、ロームブロック多量混入
4　(SD6-1)　10YR2/3　黒褐色　パミス細粒微量、ローム粒多量混入



SD5
1　10YR2/1　黒色　　ロームブロック少量混入
2　10YR2/1　黒色　　Ⅲ層に相当
3　10YR2/2　黒褐色　ロームブロック少量混入
4　10YR2/1　黒色　　10YR5/3　にぶい黄褐色土が下部に層状に堆積、ロームブロック少量混入
5　10YR2/1　黒色　　10YR6/4　にぶい黄橙色土が部分的に層状に堆積、4に類似
6　10YR1.7/1　黒色　　ローム粒少量混入

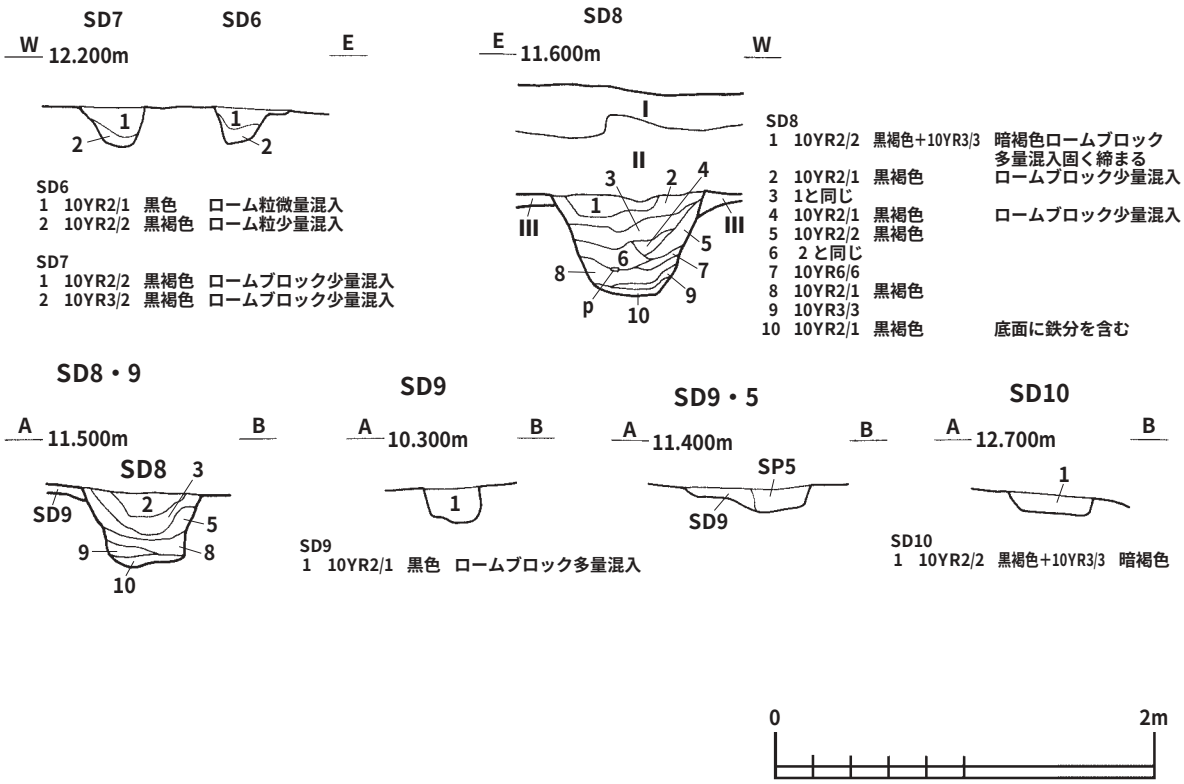


SD4・5・7・8
1　(SD4-3)
2　(SD5-6)
3　(SD7-2)
4　(SD8-2)
5　(SD8-3a)　10YR2/1　黒色　ロームブロック多量混入
6　(SD8-3b)　10YR1.7/1　黒色
7　(SD8-5)
8　(SD8-8)
9　(SD8-9)
10　(SD8-10)
11　(SD8-11)　10YR1.7/1　黒色　ロームブロック少量混入

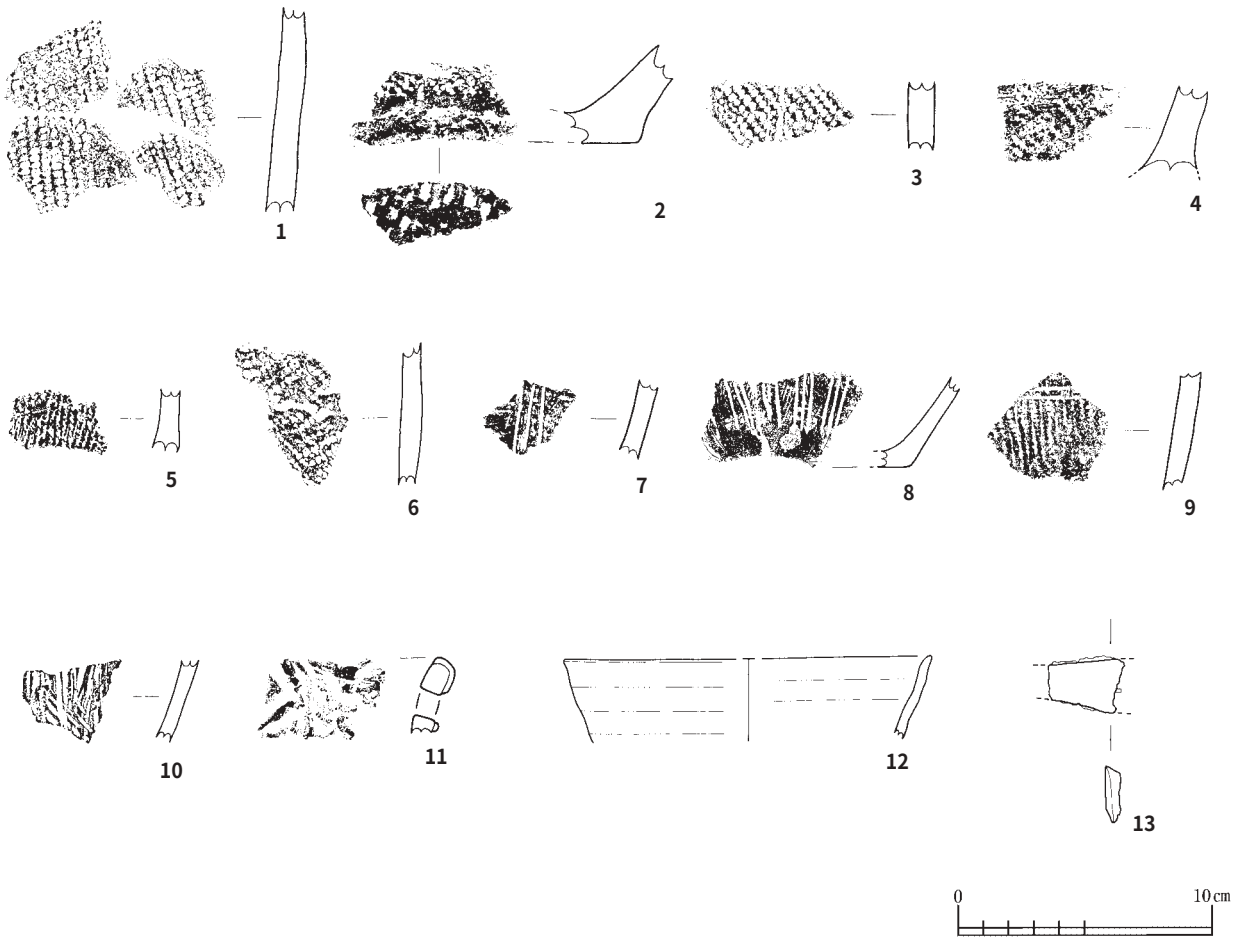


SD5・10
1　(SD5-4・5)
2　(SD5-6)
3　(SD10)

第８図　溝跡１～８・10



第９図　溝跡６～10



第10図　溝跡・遺構外出土遺物

（１・２：溝跡３　３・４：溝跡４　５～10：溝跡５　11：溝跡７　12：溝跡９　13：Ｐ－－18グリッド）

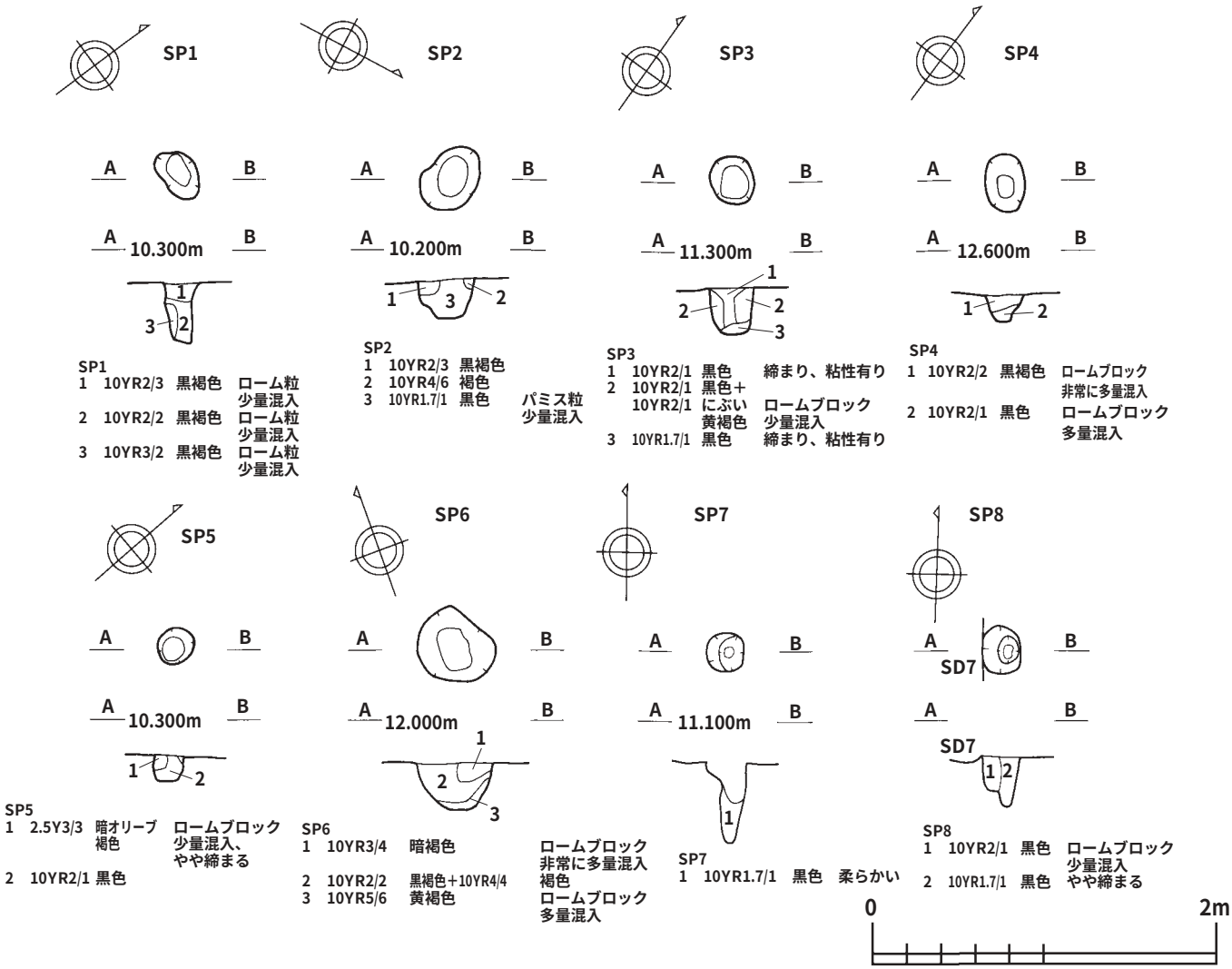
第３節　小ピット（ＳＰ）

本調査で検出した小ピットは総数18基である。建物や柵などの組み合わせは捉えられない。そのほとんどが溝跡の中や周辺で検出されたため、溝跡に付随するものとも考えられるが断定できない。他の遺構との新旧関係は確認できなかった。また遺物も出土しておらず、所属時期は比定できない。

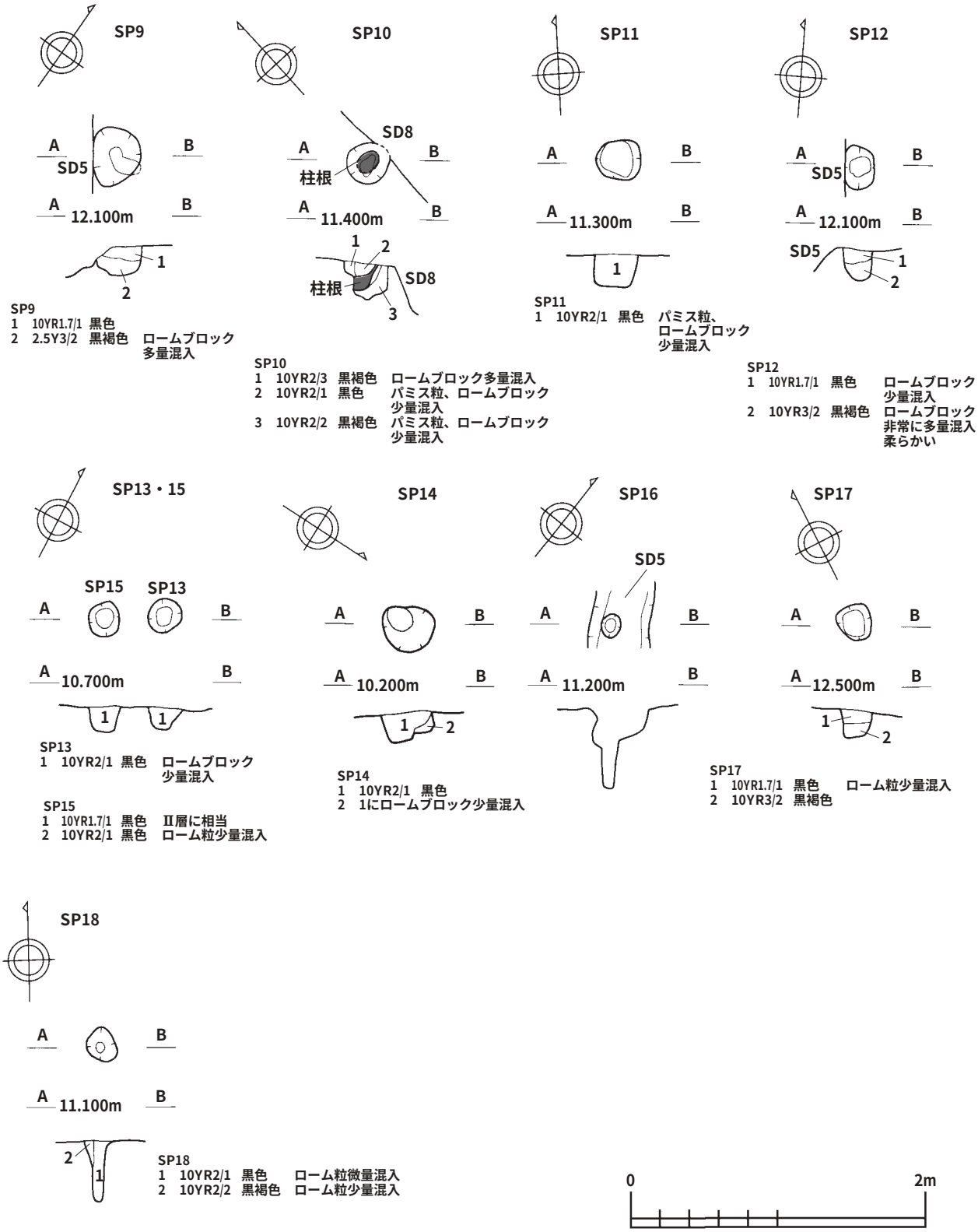
小ピット７・８・16・18は、規模および断面形態から打ち込み杭と考えられる。これらの小ピットはいずれも底部径が10cm前後で、確認面からの深さが約50cmとその規模が類似し、その関連がうかがわれるが、数が少ないうえ配列が不規則なため、詳細は不明である。小ピット10は柱根が遺存していたが、遺存状況は不良であった。

第４節　遺構外出土遺物

鉄製品が１点出土した。第10図13は、Ｐ‐－18グリッド、溝跡８隣の黒色土落ち込み（Ⅱ層）から出土した。刀子の破片と思われるが、小片のため断定できない。



第11図　小ピット１～８



第12図　小ピット 9 ～18

第Ⅲ章　まとめ

本遺跡の一部は、東北新幹線建設事業に先立ち、平成15年度に青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施し、平成16年度刊行の『三内沢部（３）遺跡　柴山（１）遺跡　洗平（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第390集として報告されている。本年度の当委員会による発掘調査は、アパート建築に伴う造成地を対象として実施した。

縄文時代の遺構は、土坑 2 基が検出されたのみである。青森県埋蔵文化財調査センターの調査では、平成15年度調査区から縄文中期後葉～末葉の竪穴住居跡が 3 軒、平成17年度の調査区からは縄文前期中頃～中期中頃の竪穴住居跡が 7 軒検出されている（青森県埋蔵文化財調査センター2005）。このことから、縄文時代の居住域は本遺跡の北西部であったことが考えられる。当委員会で調査した遺跡の土坑 1 は中位にレンズ状の焼土を伴っており、その上下から縄文土器片がやや集中して出土した。これらは口縁部を欠き大半は失われているが部分的には接合しており、土坑墓の可能性も考えられる。

時期不明の遺構として、溝跡・小ピットがある。今回検出した溝跡は10条で、その規模から大きい方の溝跡１・２・８と、小さい方の溝跡３・４・５・６・７・９・10の二つに分けられる。溝跡１・２は調査区南東隅に部分的にみられただけであるが並行しており、区画溝と考えられ、同時期に使用された可能性が高い。溝跡 8 との関係は不明である。後者の小さい方の溝跡は互いに重複してはいるが、それぞれ合流しているようにも思われるため、これらは構築時期が近いものであると推測される。溝跡 3 ～ 7 は等高線に対し、概ね垂直方向に構築されているため、沖館川に流れる用排水路として機能していたものと考えられる。平成15年度調査区からも類似した溝跡が検出されているため、その関連がうかがわれる。小ピットは前章で述べたように、すべて溝跡の付近で検出されているため、溝に付随する可能性がある。足場などの施設として用いられていたのかもしれない。

本調査区から建物跡は検出されていないが、県埋蔵文化財センターの調査では、縄文時代前期～中期、平安時代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡が検出されている。また、平成13年度に当委員会で実施した試掘調査では平安時代の竪穴住居跡が検出されている。したがって、遺跡の中心は本調査区の北と西側に広がっており、縄文・古代～中世にわたって断続的に集落が営まれていたとみてよいように思われる。

なお、本遺跡は来年度以降も青森県埋蔵文化財調査センターにより、引き続き調査が行われる予定となっている。また、以上のような発掘調査成果を踏まえて、青森県教育庁文化財保護課により分布調査が実施された。その結果、遺跡範囲が北側へ拡張され、平成18年 1 月30日付け青教文第1165号で、埋蔵文化財包蔵地台帳に登録された。

引用・参考文献

青森県教育委員会　1975a　『近野遺跡発掘調査報告書(Ⅱ)』　青森県埋蔵文化財調査報告書第22集

青森県教育委員会　1975b　『中の平遺跡発掘調査報告書』　青森県埋蔵文化財調査報告書第25集

青森県教育委員会　1978a　『青森市三内遺跡』　青森県埋蔵文化財調査報告書第37集

青森県教育委員会　1978b　『三内澤部遺跡発掘調査報告書』　青森県埋蔵文化財調査報告書第41集

青森県教育委員会　1994　『三内丸山(２)遺跡Ⅱ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第157集

青森県教育委員会　1996　『三内丸山遺跡Ⅵ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第205集

青森県教育委員会　1999　『三内丸山(６)遺跡Ⅰ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第257集

青森県教育委員会　2000　『三内丸山(６)遺跡Ⅱ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第279集

青森県教育委員会　2004　『三内丸山(５)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第370集

青森県教育委員会　2005　『三内沢部(３)遺跡・柴山(１)遺跡・洗平(２)遺跡』　青森県埋蔵文化財調査報告書第390集

青森県埋蔵文化財調査センター　2005　「三内沢部(３)・石江遺跡」『平成17年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』

青森市教育委員会　1962　『三内霊園遺跡調査概報』　青森市の文化財１

青森市教育委員会　1995　『市内遺跡詳細分布調査報告書』　青森市埋蔵文化財調査報告書第25集

青森市教育委員会　2002　『市内遺跡発掘調査報告書』　青森市埋蔵文化財調査報告書第64集

青森市教育委員会　2004　『江渡遺跡発掘調査報告書』　青森市埋蔵文化財調査報告書第75集

青森市教育委員会　2005a　『三内丸山(８)遺跡発掘調査報告書』　青森市埋蔵文化財調査報告書第78集

青森市教育委員会　2005b　『石江遺跡群発掘調査概報』　青森市埋蔵文化財調査報告書第81集

江坂輝彌編　1970　『石神遺跡』　森田村教育委員会　ニューサイエンス社

大塚初重・戸沢充則編　1996　『最新日本考古学用語辞典』　柏書房

小笠原雅行　2002　「最花式雑感」『研究紀要』第７号　青森県埋蔵文化財調査センター

海峡土器編年研究会編　2004　『第２回　東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題シンポジュウム資料』

小山正忠・竹原秀雄　1997　『新版　土色帖』　日本色研事業株式会社

戸沢充則編　1994　『縄文時代研究事典』　東京堂出版

成田滋彦　2003　「最花式土器－在地式土器群の様相－」『研究紀要』第８号　青森県埋蔵文化財調査センター

三宅徹也・石岡憲雄　1969　「青森市横内遺跡」『遮光器』２　みちのく考古学研究会

三宅徹也　1974　「青森県における円筒下層式土器群の地域展開」『北奥古代文化』６

三宅徹也　1976　「三、前期」「四、中期」『縄文式土器のうつりかわり』　青森県立郷土館

三宅徹也　1981　「円筒土器」『縄文文化の研究』３　雄山閣

三宅徹也　1989　「円筒土器下層様式」「円筒土器上層様式」『縄文土器大観』１　小学館

山内清男　1979　『日本先史土器の縄紋』　先史考古学会

第２表　土坑一覧

遺構番号	位置	平面形	規模（cm）			長軸方向	時期	備考
			確認面	底面	深さ			
ＳＫ１	Ｐ‐－19	不整楕円	210×175	126×120	42	南北	縄文中期	（旧）SK１→SD５（新）
ＳＫ２	Ｔ‐－13	円	105×98	81×78	20	―	縄文前期以降	

第３表　溝跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模（cm）				長軸方向	時期	備考
			長さ	確認面	底面	深さ			
SD１	P-－24	ほぼ直線	（276）	63	13	47	北東～南西	不明	SD２と並行
SD２	P-－24	ほぼ直線	（496）	120	36	54	北東～南西	不明	SD１と並行
SD３	O-－21～ U-－20	ほぼ直線	（2176）	50	15	22	南北	不明	SD４→SD３
SD４	O-－21～ R-－18	弧状	（1724）	48	28	26	北西～南東	不明	SD４＝SD５、 SD６と重複
SD５	O-－20～ S-－12	弧状	（4124）	51	13	36	北西～南東	不明	SD４＝SD５、 SD７・８・９・10→SD５
SD６	O-－18～ U-－18	ほぼ直線	（2196）	30	15	18	南北	不明	SD４と重複、 SD７と並行
SD７	O-－18～ U-－18	ほぼ直線	（2200）	33	17	20	南北	不明	SD７→SD５、SD６
SD８	O-－18～ R-－18	ほぼ直線	（1200）	80	35	50	南北	不明	SD８→SD５
SD９	P-－12～ R-－18	ほぼ直線	（2628）	29	25	18	東北東～西南西	不明	SD９→SD８
SD10	T-－16～ U-－17	弧状	（512）	44	35	10	北西～南東	不明	SD10→SD５

第４表　小ピット一覧

遺構番号	位置	平面形	規模（cm）			時期	備考
			確認面	底面	深さ		
SP１	P-－23	不整円	33×21	19×12	35	不明	
SP２	P-－24	不整円	41×29	23×16	22	不明	
SP３	Q-－19	円	27×26	19×15	27	不明	
SP４	T-－17	楕円	33×23	12×９	15	不明	
SP５	P-－23	円	22×19	14×12	14	不明	
SP６	T-－20	円	53×43	25×17	27	不明	
SP７	P-－18	円	23×22	６×５	45	不明	
SP８	Q-－18	円	26×23	８×５	28	不明	
SP９	S-－17	円	38×33	10×８	8	不明	
SP10	Q-－18	円	29×28	18×10	25	不明	柱根遺存
SP11	Q-－18	円	30×27	25×22	22	不明	
SP12	S-－17	楕円	30×20	14×13	20	不明	
SP13	O-－21	円	23×23	12×10	15	不明	
SP14	P-－23	円	35×30	17×15	18	不明	
SP15	O-－21	円	23×21	14×11	18	不明	
SP16	Q-－19	円	15×13	９×７	55	不明	
SP17	T-－16	円	23×22	17×14	20	不明	
SP18	Q-－18	楕円	23×20	７×５	41	不明	

第５表　出土土器観察表

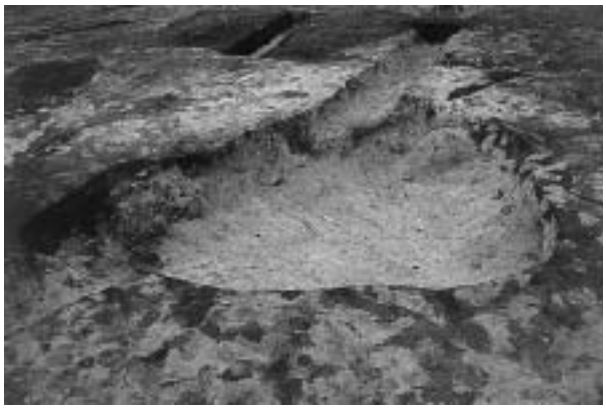
図版	No.	遺構	層位	種別	部位	文様・手法	厚さ（㎜）	色	含有物	備考
第７図	1	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	8	赤褐色	雲母、砂（多）	外面黒斑
	2	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	7	にぶい褐色	雲母、砂（多）	
	3	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	7	にぶい黄褐色	雲母、砂（多）	外面黒斑
	4	SK１	３層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	7	橙色	雲母、砂（多）	
	5	SK１	３層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	8	灰黄褐色	雲母、砂（多）	内面黒斑
	6	SK１	１層	縄文土器	胴部	LR	8	にぶい橙色	雲母、砂（多）	内面黒斑
	7	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	8	明褐色	雲母、砂（多）	外面黒斑
	8	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	8	橙色	雲母、砂（多）	内面黒斑
	9	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	9	にぶい黄褐色	雲母、砂（多）	内外面黒斑
	10	SK１	２層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）・貼付	7	にぶい黄褐色	雲母、砂（多）	内外面黒斑
	11	SK１	１層	縄文土器	胴部	貼付	7	橙色	砂（多）	
	12	SK１	１層	縄文土器	胴部	LR	6	明黄褐色	雲母、砂（多）	
	13	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	7	明褐色	雲母、砂（多）	
	14	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種	10	にぶい黄褐色	雲母、砂（多）	
	15	SK１	１層	縄文土器	胴部	LR	7	黒褐色	雲母、砂（多）	内外面黒斑
	16	SK１	１層	縄文土器	胴部	LR	8	黒褐色	雲母、砂（多）	内外面黒斑
	17	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種（横）	9	橙色	雲母、砂（多）	
	18	SK１	２層	縄文土器	胴部	結束第２種（横）	8	橙色	雲母、砂（多）	
	19	SK１	３層	縄文土器	胴部	結束第２種（横）	7	黄橙色	雲母、砂（多）	黒斑
	20	SK１	２層	縄文土器	胴部	LR	6	明黄褐色	雲母、砂（多）	外面斑
	21	SK１	１層	縄文土器	胴部	結束第２種？	8	褐灰色	雲母、砂（多）	外面黒斑
	22	SK１	１層	縄文土器	底部	LR	7	明黄褐色	雲母、砂（多）	内面黒斑
	23	SK１	１層	縄文土器	底部		10	にぶい黄褐色	雲母、砂（多）	
	24	SK１	１層	縄文土器	胴部	RLR	12	にぶい黄橙色	繊維、雲母、砂	外面スス
	25	SK２	２層	縄文土器	口縁部	単絡１（横）	7	にぶい黄橙色	繊維、砂	内外面スス
	26	SK２	２層	縄文土器	頸部	口：単絡３（横）、胴：LRL	8	にぶい黄橙色	繊維、雲母、砂	外面スス
	27	SK２	２層	縄文土器	頸部	RL押圧（横）・隆帯	12	明黄褐色	繊維、雲母、砂	
	28	SK２	２層	縄文土器	頸部	単絡３（横）	10	にぶい黄褐色	繊維、雲母、砂	
	29	SK２	２層	縄文土器	胴部	頸：押、胴：RLR＋R	9	明黄褐色	繊維、雲母、砂	
	30	SK２	２層	縄文土器	胴部		7	明黄褐色	繊維	
	31	SK２	２層	縄文土器	胴部	結束第１種	(5)	褐灰色	砂（多）	剥離
	32	SK２	２層	縄文土器	胴部	LR単絡１（横）	7	にぶい黄褐色	繊維、雲母、砂	
	33	SK２	２層	縄文土器	胴部		10	にぶい黄褐色	雲母、砂	
第10図	1	SD３	１層	縄文土器	胴部	LR	11	にぶい黄橙色	雲母、砂	
	2	SD３	１層	縄文土器	底部	RLR?、底面：網代痕	17	にぶい黄橙色	砂	
	3	SD４	３層	縄文土器	胴部	RL	11	灰黄褐色	砂	
	4	SD５	１層	縄文土器	底部に近い部分	LR?	13	黄褐色	繊維、砂	
	5	SD５	６層	縄文土器	胴部	LR単絡１（横）	8	にぶい黄橙色	繊維、雲母、砂	
	6	SD５	６層	縄文土器	胴部	結束第２種（LR・RL）（横）	8	にぶい黄橙色	雲母、砂（多）	
	7	SD５	６層	縄文土器	胴部	沈線（縦）	7	褐灰色	雲母、砂	
	8	SD５	１層	縄文土器	底部	LR?・沈線（縦）	7	にぶい赤褐色	雲母、砂	
	9	SD５	６層	縄文土器	胴部	RL・沈線（横）	8	褐灰色	雲母（多）、砂	
	10	SD５	６層	土師器・甕	胴部	ケズリ（縦）	5	にぶい橙色	砂	
	11	SD７	１層	縄文土器	口縁部	貼付、刺突	9	橙色	砂	
	12	SD９	上面	土師器・坏	口縁部	ロクロナデ	3.5	赤褐色	雲母、砂	内外面黒斑

遺跡近景（SE→）

完掘（NE→）

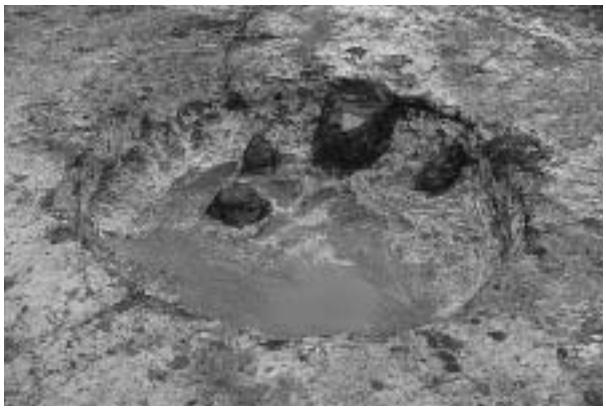
写真 1

土坑 1 断面（NE→）



土坑 1 完掘（SE→）

土坑 2 断面（S→）

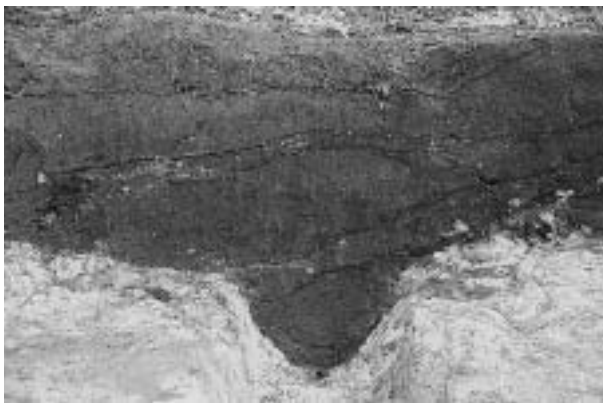


土坑 2 遺物出土状況（S→）

溝跡 1 断面（SW→）

溝跡 2 断面（SW→）

溝跡 1 ・ 2 完掘（W→）



溝跡 3 断面（S→）

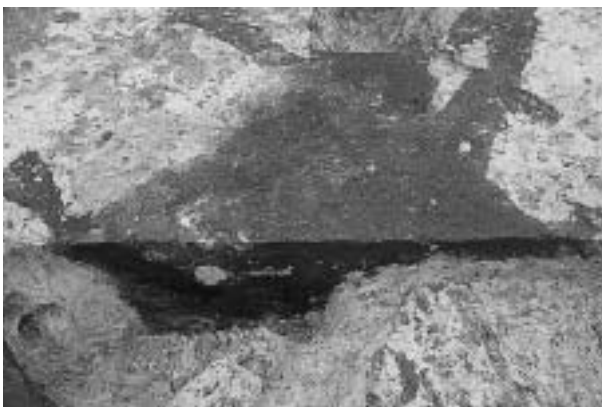
写真 2

溝跡４断面（S→）

溝跡５断面（SE→）

溝跡６・７断面（S→）

溝跡８断面（N→）



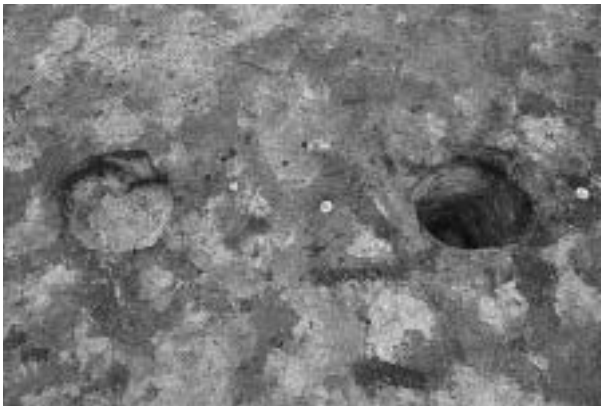
溝跡４・５・７・８断面（SE→）

溝跡９遺物出土状況（W→）

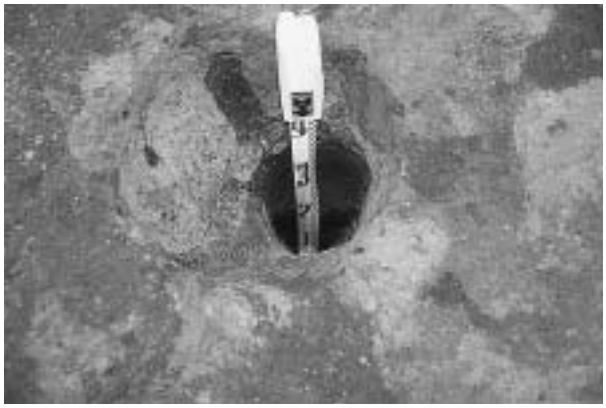
調査風景（N→）

溝跡３～８完掘（N→）

写真３



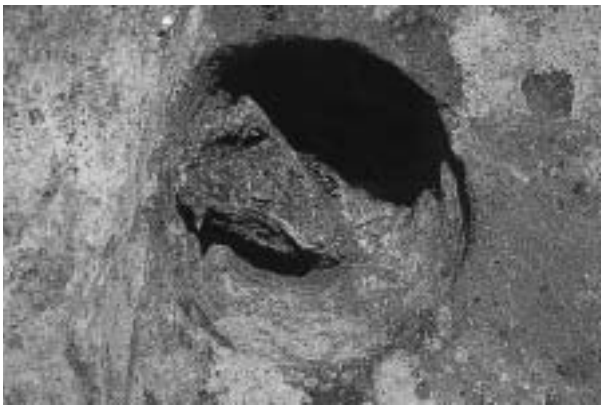
小ピット 1 ・ 5 完掘（SE→）



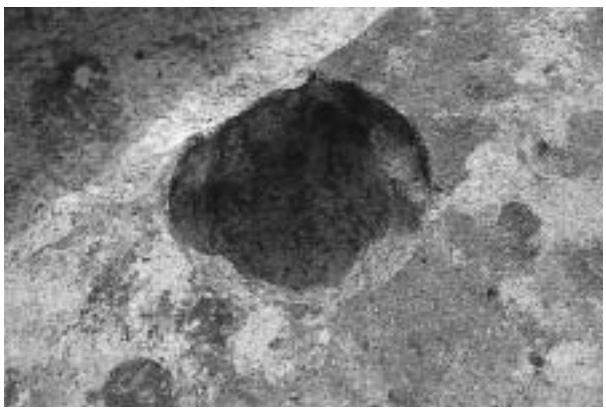
小ピット 7 断面（S→）

小ピット 8 断面（S→）

小ピット10断面（SW→）



小ピット10柱根出土状況（W→）

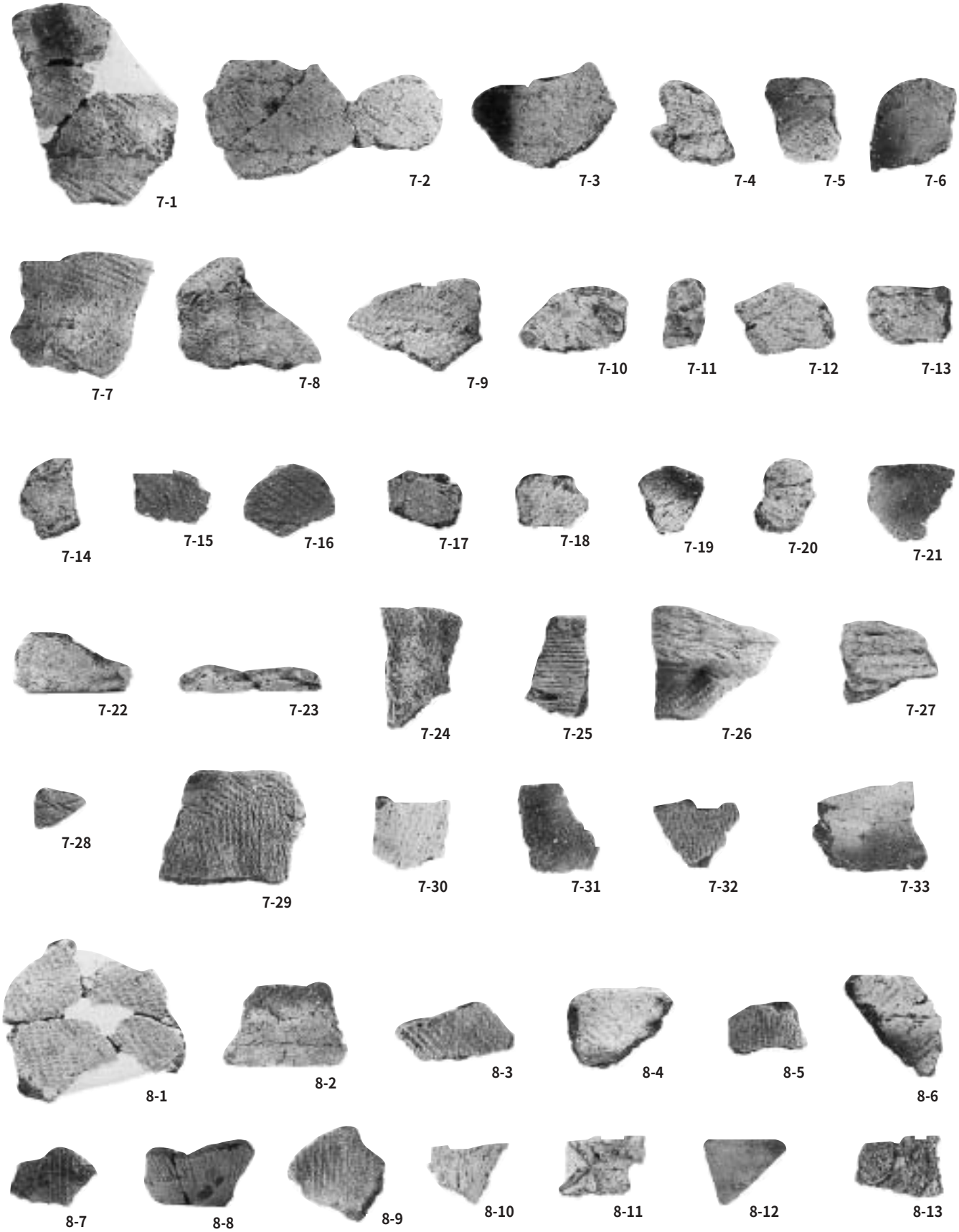


小ピット10完掘（W→）

小ピット13・15完掘（S→）

小ピット18完掘（S→）

写真 4



縮尺 7-1～8-12：1/3，8-13：1/2

写真５

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんないさわべ（3）いせき
書名	三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者名	嶋影　壮憲、児玉　大成
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-0012 青森県青森市柳川二丁目１－１　TEL017－761－4796
発行年月日	西暦2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
三内沢部 （3）遺跡	青森市大字三内 字沢部315－１外	02201	01239	40°48′46″	140°41′51″	20050704 ～ 20050729	933	アパート建築工事に伴う事前調査
				世界測地系 2000（JGD2000）				
				北緯	東経			
				40°48′56″	140°41′39″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三内沢部 （3）遺跡	その他	縄文時代 平安時代以降	土坑　2基 溝跡　10条 小ピット　18基	縄文土器（前期～中期） 土師器 鉄製品	

要約

1．三内沢部（３）遺跡は、沖館川河岸段丘上、標高約10～20mに立地する。現在、遺跡は宅地・畑地となっており、調査区は近現代の土地造成による削平がみられる。

2．調査範囲はアパート建築予定地部分の幅約50m、長さ約20mである。遺跡の範囲は調査区外にさらに広がる。

3．調査の結果、縄文時代および平安時代以降の遺構・遺物を検出した。縄文時代の遺構はごく少なく、主体は平安時代以降の遺構である。

4．土器は縄文前期中葉～平安時代まで断続的にみられる。

5．平安時代の出土遺物には少量の土器（土師器）がある。そのほかに時期不明の鉄製品（刀子？）などがある。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1　1962『三内霊園遺跡調査概報』
〃　2　1965『四ツ石遺跡調査概報』
〃　3　1967『玉清水遺跡調査概報』
〃　4　1970『三内丸山遺跡調査概報』
〃　5　1971『野木和遺跡調査報告書』
〃　6　1971『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃　7　1971『大浦遺跡調査報告書』
〃　8　1973『孫内遺跡発掘調査報告書』
1979『蛍沢遺跡』
1983『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財　1983『山野峠遺跡』
〃　1985『長森遺跡発掘調査報告書』
〃　1986『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃　1987『横内城跡発掘調査報告書』
〃　1988『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書
〃　第16集　1991『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第17集　1992『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃　第18集　1993『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃　第19集　1993『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第20集　1993『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃　第21集　1994『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第22集　1944『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃　第23集　1994『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃　第24集　1995『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第25集　1995『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第26集　1995『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第27集　1996『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃　第28集　1996『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第29集　1996『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第30集　1996『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃　第31集　1997『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第32集　1997『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第33集　1997『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃　第34集　1997『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第35集　1997『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第36集　1998『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第37集　1998『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃　第38集　1998『野木遺跡発掘調査報告書』
〃　第39集　1998『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第40集　1998『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第41集　1998『野木遺跡発掘調査概報』
〃　第42集　1998『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃　第43集　1999『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第44集　1999『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第45集　1999『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃　第46集　1999『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃　第47集　1999『稲山遺跡発掘調査概報』
〃　第48集　2000『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃　第49集　2000『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第50集　2000『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃　第51集　2000『桜峯(1)・雲谷山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第52集　2000『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃　第53集　2000『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第54集　2001『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第55集　2001『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃　第56集　2001『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃　第57集　2001『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃　第58集　2001『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第59集　2001『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第60集　2002『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃　第61集　2002『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第62集　2002『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第63集　2002『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃　第64集　2002『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第65集　2003『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃　第66集　2003『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第67集　2003『深沢（3）遺跡発掘調査報告書』
〃　第68集　2003『近野遺跡発掘調査報告書』
〃　第69集　2003『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃　第70集　2003『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃　第71集　2004『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃　第72集　2004『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃　第73集　2004『新町野遺跡発掘調査概報』
〃　第74集　2004『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃　第75集　2004『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃　第76集　2005『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃　第77集　2005『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃　第78集　2005『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃　第79集　2005『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃　第80集　2005『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃　第81集　2005『石江遺跡群発掘調査概報』
〃　第82集　2006『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃　第83集　2006『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第84集　2006『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第85集　2006『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃　第86集　2006『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃　第87集　2006『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第88集　2006『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書』
〃　第89集　2006『篠原遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書第82集

三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書

発行年月日　平成18年３月31日
発　　行　青森市教育委員会
〒038-0012　青森市柳川二丁目１－１
TEL 017-761-4796

印　　刷　東北印刷工業株式会社
〒030-0902　青森市合浦一丁目２-12
TEL 017-742-2221